

第16回農薬バイオサイエンス研究会
シンポジウム

2018.11.23 (金)
13:30~16:10

農薬研究の最前線と その未来像を描く

会場：京都大学 北部構内
旧演習林事務室 ラウンジ
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

参加費無料

【プログラム】

13:30~13:35 開会の挨拶

13:35~14:10 『感染制御型農薬の可能性：エフェクターを
メインピックとして』
高野 義孝 (京都大学大学院農学研究科)

14:10~14:45 『新規除草剤開発を事例とした作用機構研究の
農薬開発における役割 (仮)』
河合 清 (クミアイ化学工業株式会社)

休憩 (10分)

14:55~15:30 『新規殺虫剤フルキサメタミド (グレーシア®)
に関する研究』
旭 美穂 (日産化学株式会社)

15:30~16:05 『植物の農薬取り込みメカニズムを利用した
農薬の新規利用法』
乾 秀之 (神戸大学バイオシグナル総合研究センター)

16:05~16:10 閉会の挨拶

16:30 から講師を囲んで簡単な茶話会を予定しています。



主催：日本農薬学会 農薬バイオサイエンス研究会
問合せ先：秋田県立大学生物資源科学部 野下 浩二
TEL：018-872-1634 Email：noge@akita-pu.ac.jp